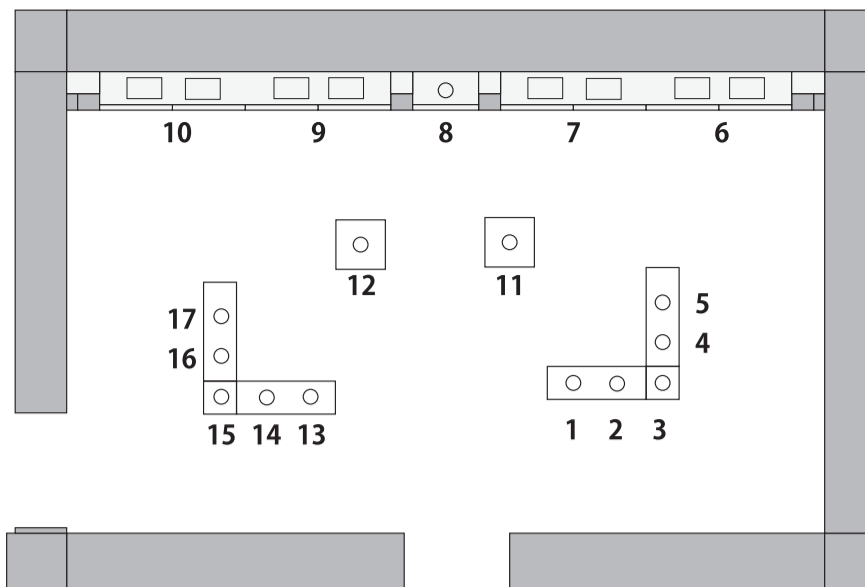


大阪市立美術館

中国工芸

青銅器・陶磁器を中心に

2013.7.9～7.21



1
せい どう じん ぶつ ほう おう かざりりゅう は こう ろ
青銅 人物鳳凰飾龍把香炉
後漢～東晋時代 2-4世紀
山口コレクション 3671

2
どう せい によらい さん ぞん そう ばん
銅製 如来三尊像板
南北朝時代北魏・延興4年(474年)
山口コレクション 3659

大きな天蓋の下に如来が結跏趺坐し、左右の菩薩が仏子などを高く振り上げる。下方では左右に一對の獅子と供養者、上方では飛天が飛来し、小画面ながら賑やかな図像である。なお類品が中国・陝西省西安附近から出土している。

3
せい どう どう てつ もん か
青銅 饗饗文罍
商時代 紀元前14-11世紀
山口コレクション 3672

4
さい どう きょ し もん たん じ ちようけい こ
彩陶 鋸齒文单耳長頸壺
青海省馬廠沿出土
馬家窯文化・馬廠類型
個人蔵 6890.04

5
かい ゆう ゆう がい き
灰釉 有蓋罇
前漢時代 紀元前1世紀 3671

6
おう ぶ
王武 1632～1690
か き ず さつ
花卉図冊
清・康熙15年(1676) 1342

本冊は水墨やごく淡い色彩で桃・牡丹・芙蓉・菊などを画く。王武は呉興(江蘇省蘇州)の人で、その一図に明の沈周の墨法にならったというように、その地で活躍した文人たちの影響を受けている。

7
うん じゅ へい
惲寿平 1633～1690
か き ず さつ
花卉図冊
清時代
阿部コレクション 211

惲寿平は、南田の号で知られる。郷里の武進(江蘇省常州)には宋代より花卉画の伝統があり、没骨法(輪郭や骨の線を描かない画法)を駆使して鮮明な色彩の作品を作った。

8
もん えい ず が ぞう せき
門衛図画像石
後漢時代 1-2世紀
山口コレクション 2911

門衛をはじめとする人物や文様を浮彫で表したものである。背景をすべて平坦に彫り込むのが特徴的である。その彫法は中国・陝西省北部～山西省中西部一帯出土の画像石と共通するもので、本図は墓室入口脇に所在していたと考えられる。

9
こう ほう かん
高鳳翰 1683～1749
か き さん すい ず さつ
花卉山水図冊
清・雍正12年(1734)
阿部コレクション 219

高鳳翰は晩年右手を患い左手で書画を作り、指先で画いた指頭画で知られる。本冊は10図より成り、指の腹の柔らかさや、爪先の鋭さなどから生まれる線の質感を巧みに活かして、花卉や山水を表情豊かに画く。

10
ちようゆう
張熊 1803～1886
か き ず さつ
花卉図冊
清・咸豊元年(1851) 2318

淡墨と鮮やかな色彩で四季の花々を描き、8図から成る。張熊は清朝後期に長く上海に流寓し、人物・山水なども描いたが、もっとも花卉に優れた。その古風で艶麗な画風は、道光・同治年間、江南地方に流行した。

11
せい か ずい か もん すい ちゆう
青花 瑞果文水注
景德鎮窯
明時代初期 15世紀
個人蔵 7825.37

花と実を同時に描いた桃と柘榴を胸部中央に表す。桃は西王母の桃園から長寿の象徴、柘榴は種子が多いことから多子の象徴という吉祥を示している。明代初期の青花は、純白の素地に少しにじみがある青の発色を特徴とする。

12
ちよう しつ ぼたん もん ほん
彫漆 牡丹文盆
明時代 15世紀
カザールコレクション 7077

13
しろ じ かつ か ちん しゅ じ ぼたん もん まめ がた まくら
白地劃花珍珠地 牡丹文豆形枕
磁州窯 2277
北宋時代 11-12世紀

河北省にある磁州窯では、灰色の素地に白泥を塗り透明釉を施した白釉陶などが焼造され、枕も特産品のひとつ。上面に富貴を表す牡丹を描き、余白を珍珠地・魚子地と呼ぶ小円文で埋め、褐色泥が象嵌されている。

14
しろ じ くら かつ か か き もん はっ かく がた まくら
白地黒劃花 花卉文八角形枕
磁州窯系諸窯
北宋～金時代 12世紀
個人蔵

15
さい かく れん よう がた ひつ せん
犀角 蓮葉形筆洗
清時代 18世紀
カザールコレクション 7246

16
はく じ かつ か ぼたん から くさりゅうもん りん か ばち
白磁劃花 牡丹唐草龍文輪花鉢
定窯
北宋時代 11世紀 2221

17
とう さい ずい か もん はち
豆彩 瑞果文鉢
景德鎮窯「大明万曆年製」青花銘
明時代・万曆期(1573-1620)
山口コレクション 3589